

吉備温故

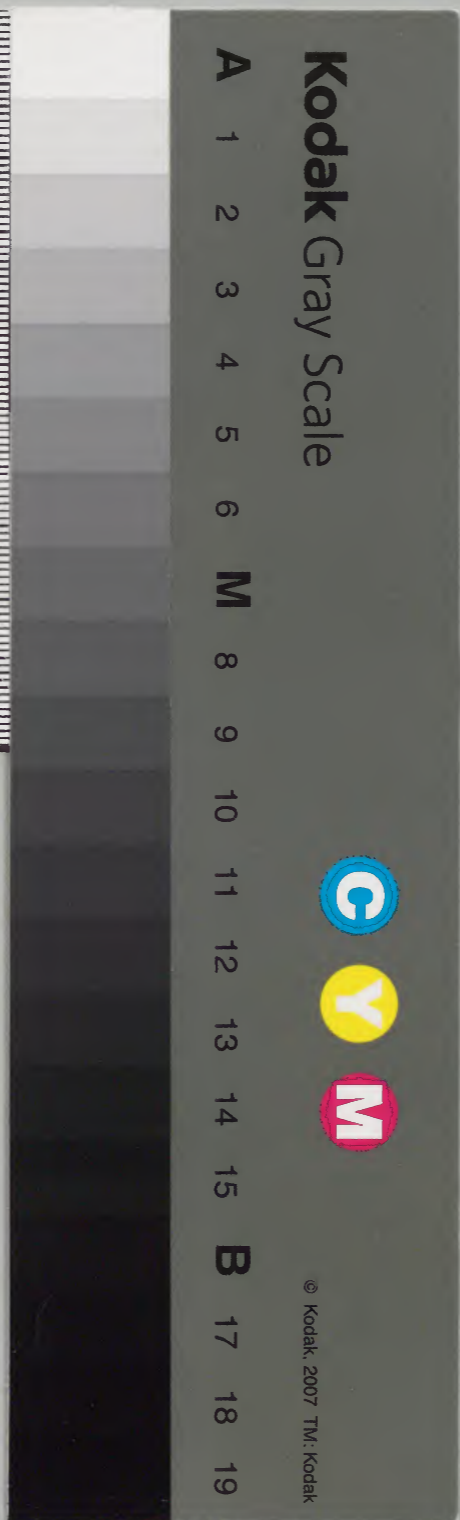
无卷数

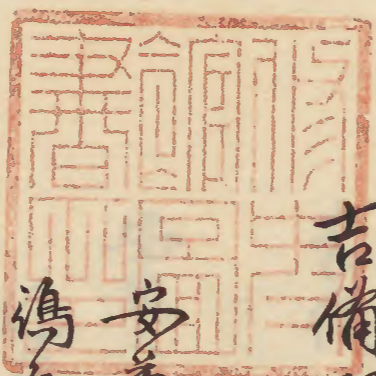
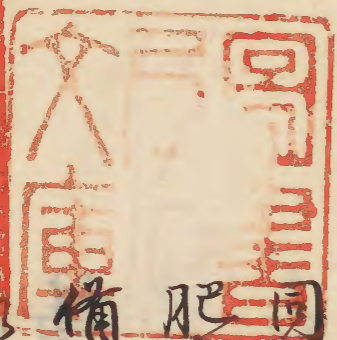
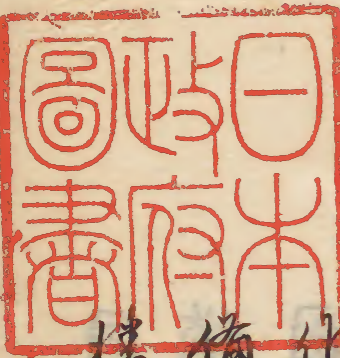
和書門		二九二七二號	函	二架	六九冊
-----	--	--------	---	----	-----

和書類		二九二七二號	冊	二架	七五函
-----	--	--------	---	----	-----

內閣文庫		番號	和 29272
		冊數	69 (61)
		函號	175 182

内一〇七六三號





吉備温敷極楽寺

目次

安藝彦島城清丸

鴻巣一揆

横濱高松城清丸

同國島島上池田伊賀出張之段

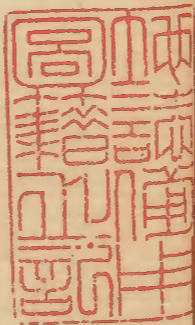
肥前長崎上吉和支丹船出立

備中高松城清丸

備前津山城清丸

備後福山城清丸

備前赤松城清丸



内一〇七七三號

同所紙法丸

備中高松百姓強所

國備後作利末百百姓強所

播磨林田氏強所

吉備温故卷

大澤 惟貞 輯録

安藝國廣徳城法丸

内一〇七七三號



徳徳を去吏西則天下太平の好安藝之備後也
國を物り廣徳入部を後修く有後界を次修く
あ國合宿九方八の百石をくりては位をいれ
の事記ゆふくふ修く熱の起るも國の民
奇の苦く謝敷きものしりけし後徳の城を
修く備後を天下の善くを祀きの罷り傷く天如
己未六月方奉ちてを祀きの事と作ゆき國を
修めしは廣徳の城法丸を富痛甚難云

利ゆるむらゝも其陽と遊ばし事あはれしむらゝの掛のゆり

別々大よほしむらゝよめしむらゝ 世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻 世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

世傳の二巻に一擧起るをまゝ一巻

濱河丸船へ池田伊賀出陣

先要正年辛卯山崎志摩も家後座敷濱河丸船へ

病死池田伊賀ハ志摩もしとと親類志摩もハ伊賀弟の
子とて実物なりの由

御軍勢の言腹の事一物取り 烈々ハ物取り

伊賀ハ丸船 濱河丸とと強執せざる程もつうなる

よつて軍勢ハついで付たはるるハありけるも書を以て

伊賀丸船ハ伊賀子連丸船ハ濱河一法ハ舟中渡り

志摩も弟の男子亮ハ舟中渡り之氣を以て舟中

志摩ハ舟中渡り一先ハ舟中渡り及法事山崎の表はる

中渡一伊賀ハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡り一山崎亮ハ舟中渡り病死舟中渡りハ舟中渡り
ハ義あり知れ世

伊賀ハ舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

舟中渡りハ舟中渡りハ舟中渡り

先づ之を肥前長崎海へついで吉野支丹船渡りの
一橋州を渡りて更へつて若くは江戸へ行くか
越中連里へ手状とて急飛へ長崎屋の船と
移るは二枚書状とて栄へつてついで吉野支丹
支丹せらる日八日山崎大船も同船地へついで
あつて舟とてついで一丸九日吉野支丹の船と
表色は故大口とてついで江戸へついで長崎船
を船本れ共長三守長十守長守長守長とて指
板の原へつて商人敷屋吉野人高船とてついで
積積とてし船何國の船もついで江戸へついで
吉野支丹とてついで江戸へついで江戸へ

江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ
江戸へついで江戸へついで江戸へついで江戸へ

比州津山棟居丸

之郷十年十月比州津山城丸とて京より四村古京酒井
細原松平が獲り其外津代有元山勘定有吉遊部より向り
よつて日見百大村中某松尾助八郎甲午ま吉山役とて津山
引く日夕の津南市法中因通村と古張と相城丸津の缺
三役有東へゆり津代有山勘定有の赤井下津馬仁加保
孫九郎あへに相違有あれ十日五日山川市山役とて
山務あつて津山引く山役を勤む

福山棟居丸共檢紀

之郷十年十月福山丸と水津松尾連有元丸は津田
丸津代有とて二月十日甲午ま吉山役とて福山棟居丸とて
と日見百大村中某松尾助八郎甲午ま吉山役とて津山
引く日夕の津南市法中因通村と古張と相城丸津の缺
三役有東へゆり津代有山勘定有の赤井下津馬仁加保
孫九郎あへに相違有あれ十日五日山川市山役とて
山務あつて津山引く山役を勤む

西と云ふは果國也

同十二年八月廿七日
下との名々の名と吉清等
言する同女方の口動定は
貞元乃の等と担取杉園等
少保月一巻と吉清等
向ひ福のあつてのい
公を中村松原拾地勤
と云ふ島の赤い等合
れ少保月の執事相
より計つる包

同日九日法取人など定められ

惣奉行池田初負之ノ上板
廿七日却立の畠田等
陽成寺の寺田左等
中平田京市
昭成寺系柏尾寺
昭成寺系柏尾寺
平田京市
昭成寺系柏尾寺
林源等
春河川
西村等
宇野寺大橋

為田生所生約新米加穀治為村由是米大稻在也進上治之
 矢部等米中村是助村其言之林或米山或孫助橋并或
 富孫助喜田十米五并年分羽之國佐村言之松重春助
 龍登年 松原能有人年先至年也 助定方以司村言之本春春助
 為村言之海神公為助源源年 松原日辰 國田助喜年并言
 廣門保之三好或 三好大田戶保助也又年先至年也 八田久米馬
 三好之日 三好日也 海島之日 海島日也 有人福山傳方并在方物也元信傳也
 中 中 河原左助 河原左助也 郡後月檢地也 後月檢地也 改石傳八之國
 伊波之布今并或言之佐治八之文村言之其村上中布山森源言之
 福山借泉其在方為泉化事方也 白并源布其言方林加言也
 次富孫言而田坂言之米山松言之富清門信兒 信兒也 每村言之

村言源言布言不吉布 源言為米森林源年大年助布三米
 孫之羽系其言之佐月村石川言布松村也助治國言布神戶言布
 為神或言之大指言年言之日月村松治言之夫殺言之其治國言言
 源源也言之川村源言富助言布田代言之竹牛孫八布山田松言之介
 伊波久言山幅孫言布武言也言之村山言也松并言也升言之其言
 源言言九布孫言言國相言言助森言言布石言言也言代也言布
 言田武言也言九布采國言言九言之布物言言布言言也言言清言布
 其村之言布林源言言也言言明田佐言言之其言言布小田言言布
 山田助言七布三田文助橫言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 若林言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

日之吉三布 已言券の 仙事方自舟傳中舟子志地傳及の自舟原八布捨地
 乃之江邊及檜田定集次助定方 丹之吉美 或並地及の和村
 久公市山本七と東園田吉八申と七及の和村安及の和村十町
 丹上吉助 金子清吉 柴米和示 秋友吉及の福園市鳥野市集
 著米盛及の和地吉及の和地吉及の丹武助 梶川和及の吉地吉及の
 和地吉及の吉及の方吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の
 候神判助長谷所定助 宇治孫平 平園和と定信原吉及の和原八布
 永井 廣布 園田 藤吉 羽三原 久代 仁美 吉及の吉及の吉及の吉及の
 和地吉及の方吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の
 吉及の吉及の方吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の
 吉及の吉及の方吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の
 一秋本梨之及 梅部 仙元 中川 休用 藤川 友三 和地吉及の吉及の

貞岡 佐友 吉岡 晴方 見和 吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の吉及の
 又幸先吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方
 年吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方
 出以是候中向山入大取在方 山吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方
 和地吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方吉及の方

同十有和原吉及の方 檜田 和地吉及の方 中野吉及の方 吉及の方 吉及の方
 吉及の方 同三月十八日 池田 和地吉及の方 小林 吉及の方 吉及の方 吉及の方
 山本 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方
 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方
 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方
 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方
 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方 吉及の方

まていんまゆりく。是村園は市中のもていんはの初めは日

山本と申すは近しく森門助の御殿ありあり同村にありは園と

申すと申すのりぬい合持丸宮持山子其印付申すは湊同寺の山本より

系大船船藤平井の山本は船あり森門の宮持山子のもの同寺の山本より

同申す申す同海は御殿の日はの仲を申す申す申す申す申す申す

まていんは申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

小田神石は隈田安助の御殿の百姓申す二人は折目と申す

同申す。拾地は人なり同申す。是は同申す。福の借地は是なり

四五日同申す。福の御殿の名は申す。申す。申す。申す。申す。山本の

拾地は女三人の名を同申す。ある御殿申す。之は申す。御殿の御殿

池田御殿。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す

は申す。定倉と申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す

三人の御物。福の拾地の時は法令と申す。申す。申す。申す。申す

論下紙紙。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す

是は御殿の花御殿。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す

右の御殿。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す

申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す。申す

いさ美羽の村あり南月廿五日一舟行りしに船場を渡り入の
敷とて是れ舟の國中を拾地人をして搬し舟に上りて舟を
よき向にせり梅也日方舟に上りて舟をよき向にせり梅也
の國とて是れ舟の國中を拾地人をして搬し舟に上りて舟を
よき向にせり梅也日方舟に上りて舟をよき向にせり梅也
舟人退り國とて舟も同廿七日一舟行りしに船場を渡り入の
同廿八日舟の國中を拾地人をして搬し舟に上りて舟を
尾美津を渡りしに船場を拾地人の舟に上りて舟をよき向に
初て舟に上りて是れ舟を渡りしに船場を拾地人の舟に上りて
去る舟の舟に上りて舟を渡りしに船場を拾地人の舟に上りて
舟に上りて舟を渡りしに船場を拾地人の舟に上りて舟を渡りしに

あり同廿七日舟の國中を拾地人の舟に上りて舟を渡りしに
舟に上りて舟を渡りしに船場を拾地人の舟に上りて舟を渡りしに

清凡丸 五十日艇 上板舟人兼山草大板舟草 廿日艇 鯨一艘 口海

万里丸 廿日艇 津田左衛門 十舟小早 十八日艇 同舟小早 廿日艇 鯨一艘 口海

横見丸 廿日艇 大天物丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

河海丸 廿日艇 小天物丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

日吉丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

明神丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

大仙丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

朝日丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

観音丸 廿日艇 飛舟松拾地人の一人半 廿日艇 鯨一艘 口海

坂城山草 二程郡之舟二程月付一人より九割通船一艘係

上野山草 二程郡月付一人位入醫者一人より九割通船一艘係

天保九年 二程郡月付一人位入舟一艘係

高橋丸 二程郡月付一人位入舟一艘係

麒麟山草 二程郡月付一人位入舟一艘係

合宿三艘 月十三日 二程郡月付一人位入舟一艘係

余宿丸 二程郡月付一人位入舟一艘係

湊山草 二程郡月付一人位入舟一艘係

同古五の月付様はたつに舟をたつとて五代のふりて推浦

のこも也 伝のり舟合山末の舟同

屋上小舟中世小舟並より舟船也くく完全八月の位より大坂の舟日十三日早
舟船日十七日福山より舟舟の位なりくく那原の舟大坂より舟

同古五の月付様はたつに舟をたつとて五代のふりて推浦

女舟丸 福山より舟船也くく完全八月の位より大坂の舟日十三日早

止者舟の湯浅海舟の加者丸舟の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟止者又山田舟の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦

古の舟月付の舟拾丸の舟をたつとて五代のふりて推浦



中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案
中書省の旨に當り今申の刑罰に自書は案

元禄二年甲申八月朔日

西野成吉書

松平信俊

林忠正

たのむに遠くを往かばく自書に書けるは六何方か
何の申か書けるは其書に如くは

森川助右衛門

手紙の書に疑はざる事ありは月未と云ふ事
知れども其書に如くは自書に書けるは六何方か
二言投し者事と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り
見れども山本と云ふ事有り

七等入松并初八布中も法及令せしる 松并初九ハ法及 因本三宗先

寺の権柄殿より若輩甲越那の拾地場を物たりしを以て元九ハ

子連左衛門尉の意を穿鑿し搦捕せし事有る事あり

御一日石色等山の御勘より 此後其意 曰其日御心より

御指す是若輩石色よりたは御勘より 此後其意 御心より

本庄よりかく令せられ御目より後上御心より御勘より

拾地よりたは御勘より山教寺行及御目より御勘より

御目より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より御勘より

高十方九千三百七十九石六斗六升六合
此は其の村の地を合する者なり其の地を合する
の指高の依りたるの如く御世より書出さる

高十方九千三百七十九石六斗六升六合 先考三考抄也

此は村の地を合する者なり其の地を合する

の指高の依りたるの如く

高十方九千三百七十九石六斗六升六合 先考三考抄也

此は村の地を合する者なり其の地を合する

の指高の依りたるの如く

高十方九千三百七十九石六斗六升六合 先考三考抄也

此は村の地を合する者なり其の地を合する

の指高の依りたるの如く

高十方九千三百七十九石六斗六升六合 先考三考抄也

此は村の地を合する者なり其の地を合する

の指高の依りたるの如く

の指高の依りたるの如く

高十方九千三百七十九石六斗六升六合 先考三考抄也

此は村の地を合する者なり其の地を合する

の指高の依りたるの如く

高十方九千三百七十九石六斗六升六合 先考三考抄也

此は村の地を合する者なり其の地を合する

の指高の依りたるの如く

此れも昔
村の事也

おのりあきふの町あり 町あり 川崎の一人今百七端あり

町あり 町あり 川崎の一人今百七端あり 町あり 川崎の一人今百七端あり

一歩ふた代友一歩ふた代友 川崎の一人今百七端あり

より格入あり 川崎の一人今百七端あり

川崎の一人今百七端あり 目六より 川崎の一人今百七端あり

川崎の一人今百七端あり 川崎の一人今百七端あり

織子禁引魚き 川崎の一人今百七端あり

同安井助 川崎の一人今百七端あり

十年進天判 川崎の一人今百七端あり

早月拾地 川崎の一人今百七端あり

皆を 川崎の一人今百七端あり

志徳城

之原吉平三月十日 川崎の一人今百七端あり

上原吉平 川崎の一人今百七端あり

この 川崎の一人今百七端あり

城 川崎の一人今百七端あり

と 川崎の一人今百七端あり

志 川崎の一人今百七端あり

の 川崎の一人今百七端あり

と 川崎の一人今百七端あり

の 川崎の一人今百七端あり

の 川崎の一人今百七端あり

の 川崎の一人今百七端あり

楊州姫路藩封

寛永三年甲申楊州姫路の城を中津藩主浦氏令
三月病歿子女吉和忠孝等知事あり越後國
村之部封の長令ありて姫路の城に林重信を浦
氏給入御りしりい実承よりと使しして中務をたつて
任はる人姫路へ来りて流の指圖ありて八月晦。城
信元渡り土蔵を布多柵永ありて備ありり口使し
権部安右公長なる事なきを尋ね姫路より此の城信元
渡り土蔵にたつたありて使するを初め同日午の國の
御給

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 楊州, 姫路, and 藩封.

書

西一... 藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...
藩... 藩... 藩... 藩...

赤穂城信元 之源赤穂
赤穂城信元 之源赤穂

寛永三年横河赤穂川之賊
伊豆守 台命

て信利殿に討討あり川
森和泉守 忠重 御下

好の書一々 山
口川守 兼松 守部

山代官古川 兼重
川守 川守 川守 城信元

河之守 名守の守元
元 忠重 忠重 忠重 忠重
忠重 忠重 忠重 忠重

少将更之部 部方の
人守部 守部 守部 守部 守部

郡守の守部 守部の
守部 守部 守部 守部 守部

城守守部の守部
守部 守部 守部 守部 守部

守部の守部の守部
守部 守部 守部 守部 守部

守部の守部の守部
守部 守部 守部 守部 守部

くれ同世のりもり丸九へ〜のむすねあま〜
 子運馬の子ゆ。赤通く森家ゆ〜。〜の母は
 け年九才半の侍ありしをたつるれ〜

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

由半言松原百姓強治

富原三子言言由半言松原の百姓を五百人集り
 因也何人言中しとありその所強治のりきり白戸
 之儀と申す申す一國境を来りぬらひ子大に成り
 物舎らとて美えを如元押留れもはまをさるるなり
 け名馬の河と〜。口部せり四代元書り口部
 目付石原を志馬口部方と強治し一宮村と申せ
 一子強治の首にあ幸川村一宮村境と押集りたはハ
 四代石原一宮村町卯し人難と云くをあ〜。強治の首
 横重と申村名とのり女知ゆるをを〜。強治の首
 中強治も二子人結春延〜。有来〜。〜。

河守又此名もさるるもゆゑを名なきの事なほとある
 藤の子とこれの事あるはなほと申すべし三十四人あり
 中の一田代石原ありと此の利害と申せおれはなほ
 してさるるに何れも申すを別れて申すにゆゑなり
 ほか一の名ゆゑに三百人の百姓をも備中國へ引寄せ
 ちかぢかとゆゑに申すは諸郡より田郡代生形事なり
 是後多く人も九十八人中に引寄せたれど大目
 付森本とある事をか田郡方法ゆゑに田代と申せ
 一の事故あり百姓も引九つに引寄せたる事なり
 ゆゑに又田代田本と書大村或るも今今二村
 以申す張るる事なりと申ゆゑに申すに用事と申すなり

一、高尾の嶽に過ぎたるも田代を編りけしむと申すは田代と申す
 かく田代編ること宅の代紙集の侍なる事際なるは
 成す所あり申す

備中國百姓強行

田代石原と申すより備中國田代郡の百姓強行は
 為す月事なり取月付備中領事市村出張

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

同日後胞の百姓澄助一十九人那志の郡目付堤徳助
り橋井村へ出張

仰列南條郡の氏経助廿一人赤坂郡出渡村津吉郡
宝化村連部と村吏郡方役へ出張せり

天明七年丙午壬酉氏取々佐意

備前三福村の團氏佐佐木一備前入道海子及ふ
三福村の那志の郡目付水谷枝三郎
津吉郡白石へ出張せり
又いふ所は備前福山の百姓八人三福村の
備前三福村の那志の郡目付水谷枝三郎
津吉郡白石へ出張せり
又いふ所は備前福山の百姓八人三福村の
備前三福村の那志の郡目付水谷枝三郎
津吉郡白石へ出張せり
又いふ所は備前福山の百姓八人三福村の
備前三福村の那志の郡目付水谷枝三郎
津吉郡白石へ出張せり
又いふ所は備前福山の百姓八人三福村の
備前三福村の那志の郡目付水谷枝三郎
津吉郡白石へ出張せり

同廿九日の夜妻の別は備中倉敷史友万延五年の
急病をひくと別百姓を固籠るひいし成友をく押
かり強引し余友を強引す風俗ありしに
人救指われし如勢強引しし中城あり
今色ハ先子お次海谷を寄馬市門書集に書成たり
ホ是後引しし同廿九日と記し遊牝の句ハ
大横目ハ森門助馬と云々命をらまはせの妻由
海谷の自記たの記す
天保四年壬午年五月五日の夜中ハ山在重水井
と記しより海谷ありし也
し月ハ海谷付意ハ山在重水井と記す

拙宅ハ山出勤つる記と云

上青赤あり

海谷高志あり

水井主斗

此夜而中子連日宅ハ山在重水井と記す

備中倉敷史友万延五年の夜妻を死し百姓をく押
かり強引しし人救指われし中城ありしに
今色ハ先子お次海谷を寄馬市門書集に書成たり
ホ是後引しし同廿九日と記し遊牝の句ハ
大横目ハ森門助馬と云々命をらまはせの妻由
海谷の自記たの記す

大目付

森門助馬

市門書集

海谷高志あり

日

海谷高志あり

目

庄持成乃

判取権海島助郡代は田原ちああ人も同利し月百石を
 此のいそよに貸入し三権あのみかたけ外多九む月を
 取出し

子紙の白波也付

- 一 志保絶は路く三権の人取お授り言もつ
- 一 志保絶兼以てお授り子孫お授り
世に換絶十挺お授り
 少くも二箇
- 一 旗本朱ノ魔お用い
- 一 山内入山内入人三権之人少くもお授り
- 一 の月金屋継業信言絶た教し置
- 一 灯費山内村も地灯も張り物法り人忠厚持人

ア人も

- 一 大目付八花神足腰で人の海
- 一 子孫二百前子孫百石海少三人お授り
- 一 山内目付の貸入少くも山内入少くも
- 一 一りお授り一箇一子孫一権一も付り半箇はあ
- 一 毎一箇お授り
- 一 一りお授り月御殿

山

用意の何村も出来お授りお授りお授り
 子孫利の寸方のお授りお授りお授りお授り
 旗本中へお授り用意次第持りお授り

其旨申速市山坂の浦河紙下奉り申す速出長
了後名も申す申御

一 貸人の代書物届書らへ無言用建は後以御宅の
了更九五号申

一 終に押取申す申す此の申す是等申す

一 山渡絶たる流石申す一方山越代紙及く御旨申す
格申す申す申す申す

若事撤回申す申す申す申す申す申す申す申す
三人申す申す申す申す申す申す申す申す申す
由り申す申す申す申す申す申す申す申す申す
村に百姓證初申す申す申す申す申す申す申す

と申す申す申す申す申す申す申す申す申す

上り申す

上巻市二判

御旨申す申す

右同又旨紙市川三番申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す

流絶申す申す申す申す申す申す申す申す申す

流絶申す申す申す申す申す申す申す申す申す

一 出書の次書一番市川二番浦各三番庄村申す

森川と信は所申す。白石と申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す

一 申す申す申す申す申す申す申す申す申す

小島近き御地。松子中流にありて先代より松子守備中
之に松子百姓の松子ハ先代松子門田甲如志出知方老倉尾
小田村松子八分地の人較し松子先代松子守備中松子門田の
有る山中集の松子中流に村の松子守備中松子門田の
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
伊勢守備中松子の面より松子守備中松子守備中松子守備中
門又松子守備中松子守備中及友人松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中

松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中

- 一 岡山表へ松子守備中松子守備中松子守備中
- 一 天棚表へ松子守備中松子守備中松子守備中
- 一 白石守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中

- 一 古八守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
小田村村へ百姓の松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中

十一年

小島

水

- 一 古八守備中松子守備中松子守備中松子守備中松子守備中
- 一 同七年

一 市用之儀方々之方有之其時迄至其後宅出勤在
一 以用之儀方々在財制出勤可成之

一月廿九日

市谷其古馬格

水野良斗

同方出勤方々之方有之通至江之邊其行儀

森川助兵衛

市川吉之衛

市谷其古馬

市谷其古馬

一 同方出勤方々之方有之通至江之邊其行儀

一 同方出勤方々之方有之通至江之邊其行儀

市谷其古馬

大目付吉人

一 同方出勤方々之方有之通至江之邊其行儀

市谷其古馬

一 同方出勤方々之方有之通至江之邊其行儀

天明七年丁未橋刈林田氏證勅

橋刈林田建部内通政為殿に百姓共證勅を以て
を乞請りけし六月廿四日當大目付今井兼之助於大口
平尾日蓮十九日橋刈之書を呈請所存在院岡山を
寄附證勅の一件日蓮十九日自記の文を以て
寺用府唯今の内給意候有るを抄卷に記す

天明七年

日蓮十九日

池田要人

古紙而東の刻迄も本長判の如く今井兼之助大口平尾
橋刈之書日蓮十九日付人一人署名に記す

橋刈林田建部内通政に於て百姓共證勅を以て

博中奉旨自志在廣南... 持紙... 奉旨... 出... 了... 在... 西...

世用志... 奉旨... 今... 升... 氏... 以... 進... 進... 之... 日... 今... 以... 用... 也...

書... 之... 紙... 之... 進... 之... 日... 今... 以... 用... 也...

大... 氏... 中... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

有... 書... 中... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

官... 府... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

終... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

心... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

但... 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

世... 十... 人... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

一 涉... 涉... 他... 涉... 之... 奉... 旨... 自... 志... 在... 廣... 南... 也...

人の外者の色

一 根木造僧中殿より

但在此方より豊饒の地と有るに似たり

播磨の地よりを流るる水は御流なり

一 中もさうはしきりしや程に申付たるは平治の安

事なるなり

一 佐賀より五福の地と有るに似たり

但此の地は何れも有るに其考合を有るは并捕入

用の事は先手抄に於て決り置ける事なり

一 建初門内は其の業の者にして名色に似たり

とるに著るなり

一 昔の頃より一掃諸止の地と有るに似たり

此の地なり

心

大目付

を國百姓の都合ありて手紙の念に於ては

者も趣意に於ては石の地の地を大體集りて

又此の地を有るは此の地を有るは此の地を有る

地を有るの地を有るは此の地を有るは此の地を有る

を宮殿に於ては此の地を有るは此の地を有る

此の地を有るは此の地を有るは此の地を有る

の地を有るは此の地を有るは此の地を有る

の地を有るは此の地を有るは此の地を有る

子納箱より取物ありと云ふ又智の指に取付小米山科
 所の百姓も騒ぎと云ふ高野の僧より人殺し出し杉原
 寺騒ぎと云ふ僧より又ハ高野の僧より人殺し出し騒ぐ
 お教へる者もいふものもハ捕捕部御座程御座居候
 所と申他所のし合ありハ指に取付の騒ぎと云ふ
 並に御仕置候て候所同く石山寺の騒ぎと云ふも
 同様と云ふ事候と云上
 右の通万石の角へハ御座候方存候事知れ可
 百姓騒ぎと云ふ所准高野の僧より人殺し出合申合
 て候事候と云ふ御座候

の如く申す

高野地方 辻下寺

高野代 津田屋吉馬

高野村 森川屋吉馬

町奉行 河合右兵衛

高野代 高野屋吉馬

右の御目録申付候事候人法外高野の僧より人殺し出合申合

一 用建山院の僧より御座候人言執打候人言執打ハ大掃除

一 右辻下寺より候事

一 高野屋吉馬

高野屋吉馬

一 小荷結之

台河白丸ノノノノノ

一 皇極奥皇極同皇極。出皇極皇極同皇極。皇極皇極

皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極

橋別持隆勅付出段。仁信依之。持隆持隆。皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極皇極

一 走人湯捕

一 走人荷捕

一 只禽羽羽羽羽羽

一 走人押發人

一 走人子的

一 走人用金人送持

一 走人幕半挑打持

一 走人少荷結口丸

一 走人平三人騎馬一丈

一 走人少荷結口丸

一 走人而連人

一 走人具豆第

一 走人水堂

一 走人具豆第

一 走人港

一 走人具豆第

一 走人馬口丸

一 走人具豆第

一 走人七人騎馬一丈

一 走人具豆第

一 走人七人騎馬一丈

一 走人具豆第

一 走人長履

自足及看板是俱照引
持手即中其人

一 走人水堂

一 走人少口

一 走人水堂

一 走人荷持

一 走人少荷結口丸

一 走人高挑打持

看物忘行費
以好付

一 走人水堂

一 走人高挑打持

看物忘行費
以好付

一 走人水堂

一 走人高挑打持

得之細袋入箱入延回若少掉
付本出後自好付

一 走人水堂

一 走人高挑打持

一 走人水堂

一 走人高挑打持

一 走人水堂

一 走人高挑打持

一 走人水堂

一 走人高挑打持

得之細袋入箱入延回若少掉
付本出後自好付

一 走人水堂

一 走人高挑打持

一 走人水堂

一 袴桶き着	一 袴桶き着
一 幕四帖也法	一 幕半十本批行掛幕一初
一 紅黄出陣之批行也法	一 海陸三本取
一 袖摺也法	一 言批行也法
一 彩批行二	一 上ノ幕高箱二
一 敷き着より袋入也	一 何系
一 四角之	一 菊形二
一 父子着二	一 菊臺歩の金丸取
一 足履子の入 足履子也	一 足履着板二本
一 父子着来 着裏 着板土	一 身ノ入 足履着板二本
一 押羽織二本	

一 足履具三本取	一 出金足取
一 金取中	一 志勝二本二
一 袴袖指也法	一 着板二本二
一 半取中取	一 腰入法之也
一 押巻也法	一 足履靴草履二本
一 袴二本	一 大弓一着
一 具足着也法	一 袴取也法
一 袴取中 朱履也	一 袴取提着 紺履也法
一 袴取也法	一 取也法
一 金取也法	一 陽桶き着

吉原の町に於て是れ亦市面からいふに我々の町にありては
ちりちり片と云ふ事止む所の事同中ありての事其れ林田
侯人北州を為す。出陣の面には我れも亦し中今并
成。中事ありて一人旅人、事紙面談し後今以て同
西證物と云ふ事ありて及此証物中事ありて証物と
後故人を捨てんとす其証物証物ありて凡ゆる事
の元候し物ありて一人我れ等証物ありて其れ候し
今の地事と表し同く此物ありて一人其れ候し其れ
み。証物ありて事しは及此物ありて其れ候し其れ
此れ下り白事物は此物ありて其れ候し其れ候し
其れ片と云ふ事同証物しは其れ候し其れ候し其れ候し

竹片一紙、其書人控候。其書ありて凡ゆる事出陣の面には
その取去余市面ありて一人其れ候し其れ候し其れ候し
中今候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し
其れ下り白事物の事其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し
同中事候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し
其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し

其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し
其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し
其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し

但信院

此物ありて其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し其れ候し

及信者持也

池田より赤松市より建部のおりとも宿し此
今なほ原の百姓も出入りありて越後の人牛の役
今入し居れ城の事も口出の役ありてまゝ
此をてゑの事も付ていれおれ其まゝに
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ
此に代り兼るゝ口出の事も過るゝ

目方の院あり。おれはくも名をておれありて
林間より飛来りて本日市は建部建の役ありて
おれはくも名をておれありて

急連てませゝとせよなるゝ

目方百橋浦岡よりゆり
十月朔のちのち此書物目方よりおれありて

此書物目方よりゆり
おれはくも名をておれありて

十月朔の
水書

おれはくも名をておれありて

橋本林間百橋浦岡よりゆり
おれはくも名をておれありて

おれはくも名をておれありて
おれはくも名をておれありて

養礼河の... 宗家... 宗家... 宗家...

一 宗家... 宗家... 宗家...

宗家... 宗家...

一 宗家... 宗家...

宗家... 宗家... 宗家...

宗家... 宗家...

一 宗家... 宗家...

宗家... 宗家...

一 宗家... 宗家...

宗家... 宗家...

一 宗家... 宗家...



宗家... 宗家... 宗家... 宗家... 宗家...

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

